

第五期 中期5カ年計画（案）

2020年5月

NPO 法人北海道市民環境ネットワーク

<理念>

「北海道のめぐみ豊かな自然環境を、子どもたちの未来に引き継ぐ」

<使命（ミッション）>

・第一期・第二期

北海道の環境保全団体の基盤を強化し、取組む市民活動の相互補完・有機的ネットワークづくり、企業及び行政等とのパートナーシップの構築を図る

・第三期

北海道の環境の現状を「見える化」するとともに、世代間の共感、地域と地域、現在と未来をつなぎ、北海道を世界に誇れる環境保全モデルとしていく

・第四期

世界につながる北海道、北の生物多様性を守る

第五期

環境活動団体・環境中間支援組織の発信力の強化

環境保全活動の必要性と成果を広く社会に伝えるとともに、学術、福祉、災害支援など、分野をこえたネットワークで、社会の課題解決に取り組む。

- ・日本社会は、新型コロナウイルス感染症によって新しいフェーズに入ったと考える。新しい社会課題、環境課題に、福祉、災害支援など、異分野のネットワークと広く共同し、北海道の環境保全、SDGsの達成、その他社会の課題解決に取り組む。
- ・「北海道」を、日本の都道府県の一つの地域としてではなく、地球の中の「生命地域（バイオリージョン）」～固有の土壌や地形、水系や気候、動植物をはじめ、多くの自然の特徴を備えた独自性を持つ生命の場～としてとらえる。
- ・北方圏（極東）における自然環境保全の情報集約・発信の拠点としての役割を担い、広く社会に向け、北海道の環境保全活動の情報発信を行う。
- ・「貴重な生命の場」をわかちあう共同体を構成するネットワークのひとつとして、他地域との連携をはかり、より効率的・効果的な地域環境・地球環境保全活動を推進する。
- ・気候変動、感染症など、社会のグローバル化に伴う新たなリスクに対して、安全なフィールド活動のために必要な知識・マネジメントのノウハウを提供する。

目標

- * 北海道独自の生物多様を保全する
- * 北海道の環境活動・環境中間支援活動を、広く社会に広報する役割を強化する
- * 北方圏の環境、暮らし、文化をキーワードとした大学、研究機関、博物館などとの連携、さらに福祉、災害支援などの分野との連携を図り、中間支援組織の視点から、北海道の環境保全と暮らしの基盤強化を図る
- * 社会の変化を常にとらえ、市民活動の新しいミッション、それを実現するノウハウを積極的にとりいれたプログラムを、中間支援組織として社会に提供する
- * SDGs の達成、特に地域の個性・自主性を育てる活動、社会的弱者・若い世代の教育機会の提供、ローカルとローカルをつなぐ新しいネットワークづくりなど、社会的課題の解決に分野を超えて参画する
- * 持続可能な組織運営のための確固たる財政基盤の強化

所見

2020 年は年初から、新型コロナウイルス感染の蔓延により、北海道・日本のみならず、全世界の社会・経済構造が根底から変わる歴史的転換の年となり、私たちの第 5 期中期 5 ヶ年計画は、その歴史的出発と位置付ける覚悟がまずは必要ではないでしょうか。時代を飛び跳ねる絶好の機会と前向きになれるかどうか、今、私たちに問われているような気がします。

冷静に振り返ってみると、今回のパンデミック、これまでの気候変動およびその他のグローバルな課題に対しても、より強靱で、多面的で、「持続可能」な経済と社会を創出しようとする視点、防災とグリーンインフラの提案が極めて重要です。パンデミックからのいち早い回復は、私たち人類共通の責任であること、世界が合意した「2030 アジェンダ」の「持続可能な開発」と気候変動に関するパリ協定が、人類と地球に希望の光を提供し続けると思うのです。この中期計画が、SDGs を基盤として新しい時代の提案を北海道から提起する先駆性を持ちたいものです。未来は予測するものではなく切り拓くもの、そんな気概をみなさんと一緒に確認できれば幸いです。